



令和4年度学校だより

10月25日

五福校 ごふくこう

No62

文責 本田

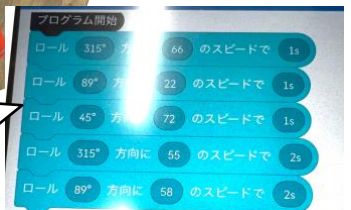
あおぞら・・・今年度も熊本県立大学の学生と一緒にロボットを制御するプログラミング学習を通して交流します。

今日あおぞら学級は熊本県立大学の飯村研究室の13人の学生のみなさんに学校にきてもらって、子どもとマンツーマンで一緒にスフィロという球体のロボットを動かしたり、メッシュというセンサーを使って制御するものを体験したりしました。機材も子ども一人一人が体験できるように持ち込んでもらいましたので、みんなトライアンドエラーで試行錯誤しながら取り組むことができました。プログラミングというと難しいイメージがありますが、今のプログラミングはブロックの命令を組み合わせることで作ることができます。この取り組みがいいのは何回も失敗できることと実際にものを動かすことで達成感を味わうことができることです。今年は、最終的にピタゴラススイッチのようなものをみんなで作ることを目標にしています。最初は大学生とお話しするのが恥ずかしそうにしていた子どもたちも、帰りにはピタッとくっついて離れなくなるくらい親密になっていました。学生にとっても子どもたちにとっても貴重な経験となりました。



プログラミングを通して県立大の学生のみなさんと仲良しに！

今年度は最初からレベルが高いです。



6年生は国語「まちの幸福論 コミュニティデザインを考える」の学習で、市の都市デザインかの方から地域の課題等を聞きました。

6年生は国語科の「まちの幸福論」という単元では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力を育むことを目指します。本単元で取り組む言語活動は、地域の人に対して町の未来についてプレゼンテーションをすることです。効果的に聞き手に伝わるよう、資料の提示などを工夫して調べたことや考えたことについて、多くの人に向けて発表するプレゼンテーションは、これからの子どもたちにはとても大切な力です。今日は子どもたちの考えが深まるように熊本市の都市デザイン課の方に学校に来ていただき、校区の概要や住民の方々の思いについて説明をしてもらいました。子どもたちは自分達で考えていたこととすり合わせることで、より深く課題や今後の提案について考え、話し合うことができました。



みんな真剣にまちの課題について話し合っています。